

結城第一高等学校の震災被害状況

結城第一高等学校 秋元 瑞穂

1. 当日の学校の状況

3月11日は、通常授業を行い放課後は追認考査に向けての補講が予定されていた。6時限目は、1，2学年の全クラスが教室の授業であった。在校者数，1学年143名，2学年121名，合計263名。

2. 地震発生時の様子

長い初期微動の後に、水平にあらゆる方向へ揺れる本震が強弱をくり返しながら続いた。

教室では、各授業担当の教員の指示のもと、落ち着いて待機するようにという放送を入れて、生徒は机の下に入るなどして様子を見ていた。負傷者やパニックになる生徒はいなかったが、一人が地震酔いの症状を起こしたため、保健室で休養させることにした。

職員室では、机の上のものが揺れによって落ちたりしたが、コンピュータなどは、その場にいる職員がおさえるなどしたため無事だった。

そのほかの部屋では、ロッカーや机等の家具がずれたり、倒れたりしていた。廊下や壁などにヒビが入ったりしていたが、校舎全体としては大きな被害はないようであった。

3. 地震発生後の対応

職員が手分けして、教室と校舎各所の確認をおこなった。その間に、生徒を校舎外の前庭に避難させようという意見もでたが、余震が続いているため階段等で将棋倒しになることを懸念したこと、校舎自体には大きな被害がないことから、教室で待機させていた。

停電、断水はなかったが、携帯電話、固定電話、インターネットはすべてつながらなくなっていた。携帯電話からのインターネットの閲覧はできたため、JR水戸線が止まっていることなどの情報は得ることができた。

本校は、普段から保護者の車により通学をしている生徒が多い。この日も、放課時間の15時25分頃から、保護者が車で生徒を迎えにきていた。車で来校した保護者から周囲の様子を聞くと、信号機が止まっていたり道路が破損しているところもあるが通行できないほどではないということであった。そこで、保護者が迎えに来た生徒、徒歩や自転車で帰宅できる生徒を下校させることにした。

JR水戸線で通学している生徒を中心に40名ほどの生徒が残った。1階の会議室に、残った生徒を集めて待機させた。生徒たちに携帯電話のメールで保護者と連絡をとるように指示し、迎えが来た生徒から順次下校させていった。最後の生徒が下校したのが19時30分頃であった。

4. 校舎内及び敷地内の被害の様子

①職員室 机の上の書類等が落ちたりしたが大きな被害はなかった。

②教室 4階の教室の多くでは、天井からつるされているスクリーンがフックからはずれてぶら下がった。壁にひびが入ったところもあった。

- ③廊下 壁にひびが入り剥離したり、タイルが落ちた。管理教室棟とあとから建てられた特別棟をつなぐ連絡通路が接続部分で大きくずれて、天井にすき間が開いた。



3階廊下



連絡通路

1階の渡り廊下を支える柱の下部に大きくひびが入った。



1階渡り廊下



渡り廊下・目地の割れ

- ④特別教室 3階の理科室では、固定していない薬品庫等の戸棚が大きくずれたが、扉を閉めていたため、中身が散乱することはなかった。机上の器具等が落下していた。

図書室では、本棚が大きくずれて、本が散乱した。また、書庫の金属製の書棚が横揺れのために窓ガラスにぶつかり、窓ガラスが割れた。4階の書道室・音楽室では、壁に掲示していた額等がすべて落下した。そのほか、固定していない棚が倒れたりしていた。



3階 書庫

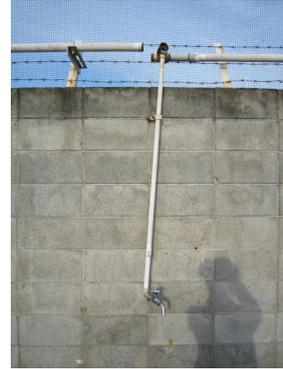


2階 進路指導室

- ⑤プール コンクリート製の壁にひびが入り，パイプがずれた。



プール壁



パイプのずれ

校舎と敷地内では，施設が使用不能になるほどの被害はなかった。

5. 学校周辺地域，及び近隣の被害状況

地震発生直後に特別棟4階から周囲を見渡したところ，500m南の結城東中学校の洋風校舎の瓦の大半が落下していた。そのほかにも見える限りすべての家屋の瓦が一部，落下しており，何カ所かで塀がくずれていた。道路には割れ目や小さな段差ができてはいたが，通行ができないほどではなかった。

地震直後から停電したため，信号が機能しなくなり，そのための渋滞がおきていた。JR水戸線では，東結城駅から上り・小山行きの列車が踏切で停車したため，踏切が通行できなくなり，周囲の交通に混乱が生じた。

結城市は，隣の筑西市と3つの橋で連絡しているが，そのうちの2つの橋が通行不能になった。市内では，停電，断水が発生し，地域によっては1週間程度続いた。

6. 地震後，学校再開まで

JR水戸線が運休していることもあり，終業式の前日まで自宅待機とした。終業式，合格者説明会は通常通り行った。ただし，JR水戸線で通学している生徒を中心に1割程度が欠席した。

数日間，スーパーやコンビニエンスストアは営業しても品薄の状態が続いた。地震直後から，ガソリンスタンドに並ぶ車の列ができ，翌日にはガソリンを給油することが難しい状況になり，3月下旬までその状況が続いた。

鬼怒川を渡るための鬼怒大橋，栄橋の両橋が通行不能になったため，朝晩の通勤時間帯に残った中島橋とそこに通じる道路の渋滞が日に日に深刻となった。4月28日に鬼怒大橋が開通したが，5月20日に栄橋が開通するまで渋滞は続いた。

JR水戸線が4月8日に運転再開した。それにあわせて，平成23年度は始業式を遅らせて，7日に入学式，8日に始業式という変則的なスタートとなった。

7. 今回の地震について反省, 改善すべき点等

本校は, 県内では被害が少ない地域であり, 学校敷地内には大きな被害はなかった。そのため, 地震当日も校舎内に生徒を待機させることができた。しかし, 校舎等が被害を受けていた場合にどこに生徒を避難・待機させるかが問題になっていたであろうと考えられる。現在も余震が続いており, 今後, 地震以外の災害も含めた防災マニュアルを備え, マニュアルに基づいた避難訓練等が必要であると考ええる。